

守山まるごと活性化 議事要旨

作成者：菅

会議名： 平成 29 年度 第9回守山学区まるごと活性化プランAプロジェクト会議

日時：平成 30 年3月 10 日(土)午後1時 30 分から

場所：守山会館1階 和室

出席者：井上代表、和田副代表、竹村、小嶋、本城、中島、梅野、杉本

出席者(行政)：市民協働課 坪内課長、守山会館 田中館長、菅主事

使用資料：行政懇話会のその後の経過と対応について、自治会ハンドブック(案)

議題

1. 自治会ハンドブックについて
2. 行政懇話会のその後の経過と対応について

会議要旨

内容

1. 自治会ハンドブックについて

平成 29 年度に発行の予定だったが、進み具合からあと2～3ヶ月で発行したい。

【意見】

- ・目次にページ数を入れたい。
- ・自治会の課題解決はまるごと活性化がなくても取り組むべき内容なので、自治会ハンドブックは自治会長会で定期的にテキスト的に使用して、内容の更新について協議できればよいのでは。
- ・どんどん新しい項目を増やして実用的に活用してもらいたい。
- ・内容的にも、守山学区だけの活用でよいのでは。
 - 他の学区からは期待しているという声がある。市民協働課としても、発行されたら入手したい。
 - 元々守山学区の実状から作成しており、市全体で使えるものではない。
 - 第1章の手引き部分は共通するので使えるのでは？
 - まずは守山学区で活用したい。市民協働課から各課に配布し、内容の確認をしてもらいたい。
- ・第3章のあとがきに記載されている、“自治会ハンドブックの内容は対症療法的な解決策であって本質的な対策ではないこと、住民一人ひとりが地域を良くしようという姿勢を持つことが大事であること”はとても重要なので、第3章のあとがきではなくハンドブック全体のあとがきでもう一度記載してはどうか。

(裏面に続く)

決定事項

次回 平成 30 年4月 15 日(日)午前 10 時 00 分から

次回以降について

自治会ハンドブックについて

会議要旨

内容

《今後について》

- ・Aプロジェクトとしては自治会ハンドブックの発行を以てプロジェクト終了としても良いが、「発行して終わり」で自治会にこれらの課題があることを忘れられてはいけない。
- ・市としては予算確保もしているので、来年度一年間でプロジェクトを整理していく方針。

2. 行政懇話会のその後の経過と対応について

事務局より、行政懇話会のその後の経過と対応の報告。

- ・行政機関委嘱委員の推薦について→参加者の負担軽減策を検討。
- ・市からの依頼文書について→市ホームページへの掲載を再度周知。
⇒市民協働課で確認中。引き続き周知を行う。
- ・募金協力について→募金の趣旨説明等行う。

【意見】

- ・自治会や学区という枠で進められているが、実態はバラバラである。
- ・小さい自治会ではほぼ全員が何かしらの役を務めることになり、負担である。
- ・変えていくための部署がない限り、ずっと同じやり方で進められると思う。我々は困っているので、自治会について専門で担当する部署を作ること検討してもらいたい。
- ・今の市民協働課は膨大な事務量の中、片手間に自治会のことをやらざるを得ない。
- ・自治会ハンドブックは地域が作成しているので、行政に対して課題の投げかけになるのではと
思っている。
- ・行政の言う「寄り添い」には70通りあることを分かってほしい。
- ・「経過と対応」としていったん回答されている状況であるが、今後も検討を続けてほしい。
でないと、みんなが困るまちになってしまう。